

第32回

全国読書作文

コンクール対象図書

【小学生の部】

図書名 : ロサリンドの庭

エルサ・ベスコフ 著

定価 1,320 円 (税込)

あすなろ書房



6歳の少年エリックは、体が弱くて病気がちだったので、いつもベッドから部屋の壁紙ばかり眺めていました。ある日、エリックがいつものように壁紙を眺めていると、突然、壁紙の中から、ロサリンドがやってきました。不思議な女の子ロサリンドは、エリックとすぐに仲良くなり毎日遊ぶようになります。エリックは、ロサリンドといっしょにいと、なぜか体の具合がよくなり元気に遊べるのです。そんな日々が続く、エリックは、日常生活でも驚くほど元気になるようになりました。ところがある日、ロサリンドは、もうあなたには会えなくなると言います。それは、ある女の子が以前のエリックよりやせていて、ベッドに寝たきりで自分を必要としているからということでした。このようにして、仲良しの二人は離れていくのですが、その後、エリックにとって思いがけなく素晴らしいことが起こります。幻想的な雰囲気と、心地よい読後感に包まれる物語です。北欧で読みつがれてきた知られざる名作！

図書名 : シェフでいこうぜ！

上條 さなえ 著

定価 1,540 円 (税込)

国土社



大斗の父ちゃんはタクシーの運転手だが、コロナのことが心配で落ちこんでいる。そこで大斗は母ちゃんと相談して、軽い心の病気にかかった父ちゃんを上げまそうと、得意な料理の腕を発揮して、父ちゃんのふるさと沖縄の、てびち料理を作って食べてもらうことにした。大好きなものを食べると元気がでるはずだ。だが、はじめて作るてびちはむずかしくて、何度も失敗を重ねて、ついに完成させる。そして大斗は、父ちゃんに沖縄のおばあのことや、高校生のころの父ちゃんが、沖縄水産高校初の甲子園での優勝に心躍らせたことを聞いたり、思い出の写真や新聞記事の切り抜きから、父ちゃんの家族を思う気持ちとふるさと愛の深さを知る。

と同時に、はじめて聞く沖縄の戦争の歴史も知る。失敗してもへこたれない大斗のチャレンジぶりと、友だちとの友情、家族のきずなを明るく描いた希望にみちた物語。

図書名 : きっと、大丈夫

いまた あきこ 著 定価 1,430 円 (税込) 文研出版



子どもたちにとって家族、特に兄弟姉妹の死は、突然であり受け入れがたいものです。そして悲しみの深さは想像できません。この作品「きっと、大丈夫」の主人公・咲良は、そんな境遇に会いながらも、家族や友だち、周囲の人々の支えで、もう一度前を向いて生きていくことに徐々に取り組んでいきます。この作品では、アゲハチョウのたまごから幼虫を育て、チョウに孵化させることを通じて、身近な人の死や生き物の死を見つめ、また生き物の成長を見つめることで、生への実感を得ていくすがたを描いています。また、主人公の心や登場人物の心に寄り添った表現は、主人公の心の微妙な変化や、人々の感情の機微を表わしています。主人公や登場人物の繊細な表情やしぐさ、アゲハチョウの成長の様子を精密なイラストで描いた挿絵と相

まって、読者の心に訴えています。

【小学生・中学生の部共通】

図書名 : りぼんちゃん

村上 雅郁 著 定価 1,540 円 (税込) フレーベル館



小 6 の朱理は同級生にも家族にも子ども扱いされ、不満を抱える女の子。早く大人になりたいと願う朱理の前に現れた、大きなりぼんの髪飾りをつけた転校生の理緒。担任の先生からその子のお世話係を頼まれた朱理は、理緒から頼りにされていると感じ、お姉さんになったようでうれしかった。理緒は朱理の話をきちんと聞いてくれる、いっしょにいて楽しいと言ってくれる。でも、朱理は自分ばかり話して、理緒のことはなにも知らないと気づいてしまった。理緒の好きなもの、理緒の家族のこと……。父親とふたりでバドミントンをしていたとクラスの子から聞いた朱理は話をふってみたのだが、理緒の様子がおかしい。やがて、どなり散らす父親の顔色をうかがいながら暮らしている理緒の苦悩を知ってしまう。りぼんちゃんはね、オオカミといっしょに暮ら

しているんだよ—この世にあふれているわざわい〈オオカミ〉とたたかうには？ 朱理が、理緒が出した答えとは？

図書名 : サステナブル・ビーチ

小手鞠 るい 著 定価 1,540 円 (税込) さ・え・ら書房



「だからさ、ぼくらができることを、なんでもいいからして、なんとかしないといけないんだ」もやもや気分で始まった小学校最後の夏休み。七海少年はハワイのビーチでカラフルな小さなつぶつぶを見つける。その正体はなんとプラスチックだった。すべての生き物たちのための、永遠につづく、きれいな海辺「サステナブル・ビーチ」を守るため、山へ、川へ。七海の「夏休みアクション」が始まる——(2重ダーシ)。

海洋プラスチック問題の現実を目の当たりにし、「なにか自分にできることはないのか」と、主人公は目覚めます。無力な自分に苦しみながらも、海の大切さを訴える芸術家の少女との約束をはたそうと懸命に考える主人公は、家族や仲間の力を得ながら、アクションの輪をどんどんと広げていきます。

物語をとおして、SDGsアクションのさまざまなアイデアを学ぶことができ、また、海洋プラスチック問題の入門書としても役立つ一冊です。

図書名 : 富士山のむこう側

岩崎 京子 著 定価 1,650 円 (税込) 文溪堂



時は戦国時代、関東から駿河にかけては、甲斐の武田、駿河の今川、小田原の北条の三国がにらみあっていた。

その三国にはさまれた小国、葛山家のふじひめは、そんな周囲の緊張した状況など知らず、のびのびと暮らしていた。

ところがある夜、父母である領主夫妻はじめ、成人していたきょうだい縁者が一度に行方知らずに！ このままでは、自分たちも殺される！ ふじひめと幼い弟久千世は、屋敷を脱出、追手を避け、あちらこちらへと逃げ回る。

逃げる中で、旅の手踊り一座、傀儡(くぐつ)師など城には到底知り合えないような人たちと出会い助けられる。

弱肉強食の非情な時代の渦に、巻き込まれながらも、ふじひめは、朝に夕に自分たちを見守ってくれている富士山を心の支えに、人の情けの暖かさを知り成長していく。

桶狭間の戦いで台頭する織田。今川による甲斐の塩止め、その報復としての武田織田同盟による今川攻めなど、背景の史実も楽しめる歴史小説。

図書名 : ホッパーさんとペンギン・ファミリー

R&F・アトウォーター 著 定価 1,650 円 (税込) 文溪堂



ペンキ屋のポッパーさんの、なによりの楽しみは、仕事が片付いた後、地球儀片手に南極の本を読むこと。なかでもペンギンが大のお気に入り。

そんなポッパーさんのところに、ある日南極から荷物が届きます。中に入っていたのは、本物の「生きた」ペンギン！？

ポッパーさんは奥さんと二人の子ども達と一緒にそのペンギンを家で飼い始めます。珍しい生き物の出現に町は大騒ぎ！ 新聞にも載りすっかりペンギンは人気者に。

ところが、ペンギンは突然元気がなくなります。このままではペンギンが死んでしまう…。ポッパーさんは、動物の専門家で世界一大きな水族館につとめるスミス博士に相談します。すると、「孤独が原因」という答えとともに、送られたてきたのは、もう一羽のペンギン。

やがて二羽からたくさんの子どもが産まれますが、食事代や部屋代がかさみ、このままでは暮らせない、と新たな悩み。

そこでポッパーさんが考えた奇想天外な解決法とは？

【中学生の部】

図書名 : 春のウサギ

ケヴィン・ヘンクス 著 定価 1,540 円 (税込) 小学館



12歳の少女アミーリアは、幼いころに母親を亡くし、父親と二人で暮らしています。言葉少ない父親との暮らしにさみしい思いをしているアミーリアですが、近所に住むオブライエンさんが何かと身の回りの世話をしてくれて、心の支えになってくれています。そんなアミーリアの楽しみは、陶芸工房に通うことでした。いまは、ウサギの置物作りに熱中しています。春休みになり、いろんなポーズのウサギを毎日作って並べて楽しんでいました。そんなある日、工房で出会ったケイシーと意気投合。お互いに誰にも話したことの無い悩みを打ち明けるようになります。小さいころに死に別れたお母さんと会いたいというアミーリアに、ケイシーは想像遊びをしようと持ちかけます。「あそこにいる女性がお母さんだと仮定してみようよ」と。次々と楽しい想像をめぐらせて、物語は、思わぬ方向に展開していきますが……。少女の気持ちによりそうやさしい物語です。

図書名 : Fができない

升井 純子 著 定価 1,650 円 (税込) 文研出版



小学校を卒業し中学校へ進学するとき、不安や心配でいっぱいだと思います。「どうやって、この不安から抜け出すことが出来るか?」「どうやったら、周りから馬鹿にされないように中学生を送れるか?」について、悩むことがあるかもしれません。この作品「Fができない」の主人公の中学1年の直大(なおひろ)は、中学のスタートの波に乘れずに立ちすくんでいる男子です。主人公は「中学校では違う自分になりたい。」という気持ちで中学に進学しました。中学校という新しい環境に戸惑いながらも、大好きな兄から譲り受けたギターをもとに、音楽の演奏を通じて、新しいクラスメイトとのかかわりや思いやりの気持ちを育てていきます。そしてそのすがたが、優しくさわやかに描かれています。ギターの弦の図解などもあり、ギターを弾いたことのない人にも分かりやすい工夫がされているので、知識がなくてもスムーズに物語に入ることができるようになっています。

図書名 : 世界とキレル

佐藤 まどか 著 定価 1,540 円 (税込) あすなろ書房



中2の舞は、夏休みに「森の家」というサマースクールに行くことになった。「森の家」は新時代をよりよく生きるため、先入観にとらわれないエリート育成を目標に、8人の中学生が、同じ環境、同じ食べ物、同じ服装、同じコンディションの中で3週間を過ごすというものだった。食事は自給自足を原則にオーガニック食材を使用した特別メニュー。ジャンクフードは禁止。スマホ、タブレットは使用不可のため没収された。スマホは、舞にとって「窓」だった。世界と繋がっている「窓」がなくなったのだ。舞は、こんな生活は耐えられないとある朝、脱走を試みる。まだ暗いうちから、そっと外へ出て歩き始めた。林道をいくと、車で追いつかれ捕まるので、森の中を林道に平行に進むことにした。少し歩いたあと、足もとを滑らせ斜面を転げ落ちてしまう。大木に当たって止まるが全身が痛くて、その場で動けなくなってしまい……。スマホに依存して生きている中学生が、仲間や自然生活との出会いで変わっていくひと夏を描いた感動の物語。